

# 民主島根

2016年  
**2.28**  
第1257号

発行所 松江市袖師町3-6 TEL 0852-24-2444  
日本共産党島根県委員会 FAX 0852-24-6369

## 戦争法廃止！参院比例57000票突破へ 5野党合意・全党が心一つに 参院選勝利めざす全県決起集会ひらく

日本共産党島根県委員会は21日、大田市で参院選勝利をめざす全県決起集会を開き、戦争法廃止、参院選比例57000票突破へ全力を挙げようと誓い合いました。

報告に立った後藤勝彦県委員長は、5野党の面期的合意にふれ、「これから本番。戦争法廃止、参院比例目標突破へ全力を挙げよう」と述べ、「歴史的な合意で日本共産党がどう頑張るのかが注目されている。私たちの一日一日の頑張りや歴史を前に動かす」と呼びかけました。

遠藤秀和党島取・島根国政対策委員長が決意表明し、春名なおあき元衆院議員のビデオレターを視聴



戦争法廃止、参院選での勝利・躍進を誓い合う参加者（大田市）



### 松江 高校生も戦争法に反対 憲法会議が2000万署名行動

討論では、地方議員や青年など13人が発言。戦争法廃止2000万署名や中間選挙、参院選への取り組みなどを意気高く語りました。

4月の川本町議選で8

年ぶりの議席回復に挑む山口節雄氏は、町民との対話にふれ、党議席への期待が強いことを紹介。「党勢拡大と併せ、必ず当選を果たし、党躍進の大きな流れをつくりたい」と決意を表明しました。（2面参照）



### 大雪被害対策を県へ申し入れ 遠藤氏、県議団、大和邑南町議

日本共産党島根県委員会は16日、溝口善兵衛知事あてに「大雪被害にかか

る復旧支援の充実・強化」を申し入れました。遠藤秀和党島取・島根国政対策委員長、尾村利成、大國陽介両県議、大和磨美邑南町議が出席しました。（写真）

1月下旬の大雪で、邑南町では野菜ハウス132件（被害額・1億3600万円）が全壊しました。

大和氏は、ハウスでの育苗や春野菜の準備をする矢先の被害で小規模農家の被害が大きく、町も雪害

事あてに「大雪被害にかか

懸念に訴えていた元教員



### 共産・民主・社民が合同街頭宣伝 県庁前で「戦争法廃止、安倍政権打倒」の訴え

戦争法の成立から5カ月となる19日、日本共産党と民主党、社民党の3党が県庁前口1タリで合同街頭宣伝を行いました。（写真）

日本共産党県委員長副委員長の尾村利成県議は「本

対策を促していたが、予想外の大雪と語り、「3年連続の自然災害。今何とせねば農業を続けられない」と話しました。

大和氏らは生産意欲ある全農家に積極的な農業支援、補助金の交付申請を簡素化し、柔軟な対応と事務負担が過大とならないよう要求。坂本延久農林水産部長は「前向きな意欲がくじけないよう対応する」「概算払いはハウス倒壊の写真と必要最小限の証拠があれば可能と町に伝えたい」と答え、市町村やJAと全力を挙げたいと話しました。

孫のことを考えると将来、いい方向（戦争のない）にしたい」と決意を述べました。

共産、民主の松江

日、5野党が戦争法廃止法案を衆議院に提出しました。国民の世論と運動が野党共闘をすすめる大きな力になりました」と強調し、「野党5党は、戦争法廃止と安倍政権打倒に向けて力を合わせます」と訴えました。

民主党からは県連幹事長の岩田浩岳県議が、社民党からは県連幹事長の細田実・雲南市議が訴えました。

共産、民主の松江

### 鼓動

2月は日本共産党にとつて、歴史的に2つの意味で特別な月である。ひとつは88年前の2月に「赤旗」が「せつぎ」として創刊された。もうひとつは、党員作家の小林多喜二が特高の拷問によって虐殺されたのが、83年前の2月だった▼「赤旗」が日本の政治史において果たしてきた役割の大きさは小欄でくり返すまでもないが、自分史にとつてもわが人生を決定づけた新聞だった。日刊「赤旗」を購読し始めたのは43年前の大学1年の時だった。紙面からあまりに鮮烈な感動を受け、すぐに読者欄に投稿した▼埃を被った古い縮刷版を探すと、「赤旗が私の恋人」との拙文が出てきた。そこには、「まだ共産党支持者ではなかったが、政策を検討しよう」と、総選挙の公示日にとり始めたところ。そして、丹念に読んでいくうちに社会や政治に目覚めていくことが書かれていた▼「きょうも私は、赤ペンとノートをそばに赤旗に向かい、あすの日本を思索しているのです。それはちやうど恋人と向かい合っていて、未来の展望を語るがごとく」と結んでいた。少し気恥ずかしい思いもするが、あの時の原点にいま一度立ち戻りたいと願う今日この頃である▼多喜二の虐殺は、侵略戦争に突き進んだわが国の政治史において、決して忘れてはならない蛮行のひとつである。そして母セキにとつても、変わり果てた息子の凄惨な姿は、生涯、頭から離れることがなかった。「あーまた二月の月がきた／いな月、こいをいかにしたい」。読み書きができなかったセキが、やっこの思いで書いたメモが後年その遺品から見つかった。セキの生涯を描く映画「母」（原作・三浦綾子）が、来年の公開に向けて今夏撮影に入る。必見の映画だ。（吉）